

「アラビアのロレンス」のコロムビア  
「風と共に去りぬ」のMGM  
世界の2大映画会社が  
総力を結集して描く 雄渾の超大作

悠久の砂漠に いま燃えあがる 愛と友情と戦いの炎

【70】  
カラー作品／パナビジョン

The Wind And The Lion

# 風とライオン

ショーン・コネリー  
キャンディス・バーゲン  
ブライアン・キース  
ジョン・ヒューストン

製作ハーブ・ジャッフェ  
監督・脚本ジョン・ミリアス  
音楽ジェリー・ゴルドスミス  
原作邦訳・早川書房刊  
コロムビア映画

Columbia Pictures



The Wind and the Lion

10mm

■カラー作品／パナビジョン

# 風とライオン

●国際的スケールの紛争がテーマに  
一九〇四年のモロッコ。原住民族リフ族の首長ライズリは、アメリカ婦人イーデン・ヘディカリスと、そのふたりの子供たちを、「白昼白人専用地区から誘拐された」ことを、「白昼白人専用地区から誘拐した」と報告された。大統領は、次期選挙にこれを利用しようとしていたが、ペティカリス夫人救出！。ライズリを葬れ」のスローガンをかけた。ライズリの行為は圧政から民衆を救おうとしてとった非常手段だった。捕えられた夫人たちはライズリの厚遇をうけ、いつしか夫人とライズリの間には友情以上の感情が芽生えはじめた。ライズリは大統領に挑戦した。アメリカ海軍の艦隊はモロッコへ出動。やがて、この事件は国際的スケールの紛争へと発展していく。

●ハリウッド二大映画会社が共同製作

この映画は、ロシター・フォーブスの歴史小説「リフ族の首長」にもとづいている。今年30歳のジョン・ミリアス監督（「デリンジャーン」）は、この本を読んで以來、いか映画化したいと思つていたといふ。ミリアスがプロデューサーのハーパー・ジャッフェに映画化の話を持ちこんで、「風とライオン」は、コロムビア＝MGMといふハリウッド二大メージャーの対等の共同出資で、74年8月19日、スペインのマドリードでクリランク・インした。題名の「風とライオン」は、ライズリがルーズベルトにあてた手紙の中で、「兄弟よ、あなたたは風だ。そして私はライオンなのだ」と表現しているところからとられたものである。

この映画のみどころは、壮大な大自然－戦闘場面の撮影風景やロケ隊のテンコ群などを見た人々は、まさに「アラビアのロレンス」の撮影現場にいるような錯覚にとらえられたという。戦闘場面ひとつにしても、「ローラーボール」のスタントマン、テリー・ロナルドら114名のスタンプ・グループを投入。2千をこえるエキストラ軍団をジェット・ヘリコプターと無線で動かし、みわたすかぎりの砂の海のあちこちで、560回の爆発が続けざまに起これれた。

●白熱の名演ショーン・コネリー vs キャンティス・バーゲン  
主演者は、リフ族の首長ライズリに「オーラント急行殺人事件」のショーン・コネリー。黒衣をまとい、白馬にまたがつて砂漠を疾駆するその勇姿は、まさに適役だ。  
そして、ライズリに誘拐されるアメリカ婦人に「弾丸を噛め」のキャンティス・バーゲン。その知的な美しさには、ますますみがきがかけられ、ロケ撮影中、キャンティスは「ミセス・アラビアのロレンス」と呼ばれた。  
その他、シオドア・ルーズベルト大統領に「ザ・ヤクザ」のブライアン・キース、國務長官ジョン・ヘイにペテラン監督兼俳優のジョン・ヒューストンが扮し、迫真の演技をくりひろげている。

●「アラビアの大叙事詩」を思わせる一大叙事詩

この映画のハイライト・シーンである砂漠の美しさと厳しさ、そして民族や人種を見た人々は、まさに「アラビアのロレンス」の撮影現場にいるような錯覚それは、まさに一大叙事詩を織りあげていく。

モロッコの沈む太陽に  
沙塵舞い上る  
その恐怖と哀感。  
淀川長治さん  
(映画評論家)  
大作のスケール  
驚くばかり



次回ロードショー

渋谷 パンテオン(407) 7219 新宿 ミラノ座(202) 1189